

上部尿路感染予防のための 清潔間欠自己導尿の実際とケア指導書の作成

平成24年2月4日

古林 千恵¹, 矢野 久子², 脇本 寛子², 畑 七奈子³,
山本 洋行², 脇本 幸夫³

1名 名古屋市立西部医療センター 看護部

2名 名古屋市立大学 大学院 看護学研究科

3名 名古屋市立大学病院

背景

- ・ 高齢社会の到来と医療費の削減を背景に入院期間の短縮が図られ在宅医療の普及が推進されている。
- ・ 排尿障害のある患者が自宅で行う排尿方法のひとつに**清潔間欠自己導尿**（clean intermittent self catheterization：以下CIC）がある。
- ・ CICとは1972年にLapidesらが¹⁾発表。**膀胱過拡張を起こさないように導尿することが重要。**
- ・ CICの効果は、カテーテルを使い排尿することで膀胱を**低圧**に保ち膀胱尿管逆流による**腎機能障害**を防止し、尿道留置**カテーテルからの解放**により患者のQOLの向上が期待できるなどである。

CIC実施の様子



1) Lapides J., Diokno A.C., Lowe B.S., et al. : Followup on Unsterile, Intermittent Self-Catheterization, The Journal of Urology, 111(2), 184-187, 1974.

膀胱過拡張とは

- ・ 膀胱の容量は300mL～500mL
- ・ CDCガイドライン2009¹⁾ →1回排尿量300mL以下を目安とする.
- ・ 標準泌尿器科学²⁾ →300mL以上で導尿回数を1回増やすべきである.

1回排尿量300mL以上は膀胱過拡張

- ・ 正しくCICを実施しなければ**膀胱過拡張**による**膀胱尿管逆流**や**水腎症**から、腎機能を悪化させること³⁾がある。腎盂腎炎などの**尿路敗血症及び敗血症性ショック**にいたる場合もあり、生命に危険が及ぶ⁴⁾。特に**上部尿路感染症**においては注意が必要となる。

1) 山口脩:下部尿路機能障害, 標準泌尿器科学(赤座英之他編), 第8版第1刷, 163-173, 株式会社 医学書院, 東京, 2010.

2) 満田年宏:カテーテル関連尿路感染予防のためのCDCガイドライン2009, 93-94, 株式会社 ヴァンメディカル, 東京, 2010.

3) 大川あさ子:排尿のコンチネンスケア 尿排出障害, 月刊ナーシング, 26(9), 58-64, 2006.

4) 田中一志, 藤澤正人:急性尿路感染症, 臨床泌尿器科, 64(5), 299-304, 2010.

研究目的

- 1) CIC実施中の患者事例を解析し，CIC導入の指導内容項目の実態と課題を明らかにすること。
- 2) 1)を踏まえ，CIC導入および継続指導時のケア指導内容書を作成すること。

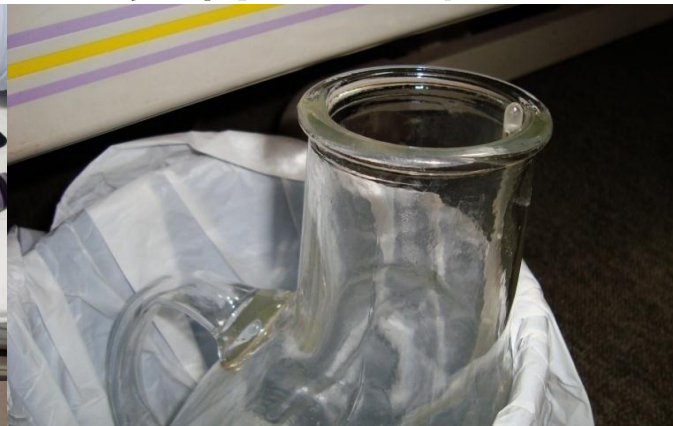
方法・研究期間

1. CIC導入時の指導内容・実施状況についての面接
2. 診療録からの情報収集
3. CIC手技の直接観察
4. 排尿記録の記載の依頼やカテーテルの細菌学的解析
5. 1～4の結果を踏まえたケア指導書の作成

調査期間：平成21年4月～22年12月

倫理的配慮：名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会承認
J病院倫理委員会承認（平成21年2月）

カテーテル管理の実際（患者A）



結 論

- ・高齢者は特に自宅での実施環境・状況を具体的に情報収集し、**必要物品など個人に合わせた**継続支援が必要である
- ・膀胱過拡張を理解し、1回排尿量を意識できるよう**排尿記録の記載**・**C I C回数増減の判断**ができるような指導が必要である
- ・上部尿路機能の保護を目的とした、**排尿間隔と排尿量を自分自身で判断し**、清潔なC I Cが適切に実施できるような指導が必要である